

薬草園の花だより

第 10 号

2018年(平成30年)6月14日発行

■ 第 10 号に寄せて

昨年(2017年)6月19日に創刊号を発行してから約1年、不定期に発行してまいりました「薬草園の花だより」も第10号となりました。たくさんの励みになる言葉をいただき、ありがとうございます。

さて、すでに関東地方は梅雨入りとなりました。じめじめした日々が続くことになりますが、多くの植物にとってはとても良い季節なのでしょう。元気にぐんぐん育つものが目立ちます。



サラセニア

薬用植物園にてはこの間まで咲き誇っていたノカンゾウ(ワスレグサ科)も数輪が残るだけとなりました。水生植物のコーナーでは食虫植物のサラセニア(サラセニア科)が花を咲かせています。また、今はまだ大部分が蕾ですが、まもなくベニバナ(キク科)もたくさん開花し始めることでしょう。温室東側圃場にウラルカンゾウ(マメ科)が植えられていますが、今年も花をつけませんでした。実は、この植物は日本国内では滅多に花をつけないそうで、その珍しい花を、過日、ツムラの薬草園にて見ることができました。その時に撮影した写真も添付します。ワスレグサ科のカンゾウ(萱草)類とマメ科のカンゾウ(甘草)類、全く異なる科に属する植物です。(船山)



ノカンゾウ



ウラルカンゾウ

■ 今咲いています・見頃です

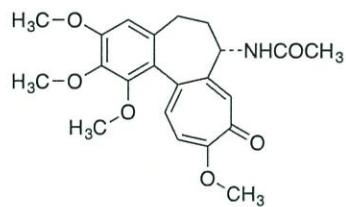
《グロリオサ》

グロリオサは別名をユリグルマなどともいいうイヌサフラン科の蔓性の植物です。

今、薬用植物園の東側の温室内にて赤や黄色の大変に美しい花をたくさんつけています。グロリオサはもともとユリ科に分類されていましたが、今は前述のコルチカム(第5号)と同じくイヌサフラン科に分類されている植物です。



グロリオサ(ユリグルマ)



コルヒチン

この植物の根はちょうどヤマノイモのような形となることからか、ヤマノイモと間違えて食べてしまって中毒した事例があります。その有毒成分はイヌサフラン(別名コルチカム/イヌサフラン科)に含まれるアルカロイドとして知られるコルヒチンです。コルヒチンは園芸において倍数体作成に使用する他、臨床では痛風に応用されたりしますが、場合によっては命に関わることもありますから充分な注意が必要です。

《ウツボグサ》

ウツボグサはシソ科に属する多年草です。今、温室の南西側の圃場にて印象的な紫色の花を咲かせています。シソ科の植物の特徴として茎が角張っていますからどうぞ触ってみてください。現在さかんに咲いていますものの、すでにもう穂の一部は茶色に変色しています。このように夏にすでに一部が枯れ始める性質から別名をカコソウ(夏枯草)とも言います。消炎利尿薬としての応用がされていますが、観賞用の園芸植物としても、株のまとまり方や、花付きの良さ、花期の長さ、花色の鮮やかさ、そして、花後の枯れた穂の形状の美しさなど、種々の魅力があるように思えます。いずれホームセンターなどでもこの苗が観賞用の園芸植物の苗として並ぶ日が来るかもしれません。



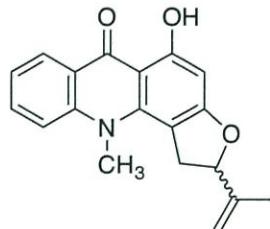
ウツボグサ

《ヘンルーダ》



ヘンルーダ

ヘンルーダ (*Ruta graveolens*) はミカン科には珍しい草本植物です。今、温室の南東側の圃場にて花を咲かせています。ヘンルーダにはブソラーレンのようなフロクマリンと称される化合物群を含みます。その他、このものは、植物成分の基本骨格としては新しく1945年に最初に見出された、珍しいアクリドン骨格を有するアルカロイドであるルタクリドンも含まれています。この植物には独特の匂いもありますので、是非、一度薬用植物園にてこの匂いを記憶に留めていただきたいと思います。



《カワラ（ヤマト）ナデシコ》

カワラナデシコはナデシコ科に属する多年草で、温室東側圃場に咲いています。ナデシコは古くから愛され、万葉集には26首が詠まれており、山上憶良によって秋の七草のひとつとしても取り上げられています。万葉歌人では大伴家持がとくにこの花を好みました。

一方、清少納言は『枕草子』に「草の花は撫子 唐（から）のはさらなり 大和もいとめでたし」と書いており、当時はすでに唐撫子、いわゆるセキチク（石竹）も我が国に導入され、わが国のナデシコはヤマトナデシコ（大和撫子）と呼ばれるようになっていたようです。ナデシコは、かつての「なでしこジャパン」の活躍とあいまってか、凛とした女性を思わせます。その種子を瞿麦子（クバクシ）と称し、消炎・利尿の目的で応用されます。



カワラナデシコ

■最近の他の植物写真から（1）

キャンパス内あるいは周辺にて最近撮影した植物写真から、薬用か否かにかかわらず、いくつか選び出してみました。

先般、クチナシ（アカネ科）の花の写真が必要となったものの見あたらず、借り物の写真を使うことになり、忸怩たる思いをしましたが、なんと、おそらく皆さんも御存知の「ウニクス伊奈」の駐車場脇に咲いていました。一方、ボリジ（ムラサキ科）が薬用植物園の入り口に咲いています。この花を氷に閉じ込めるとても綺麗ですが、ピロリチシン系アルカロイドを含むため多食は禁物です。また、温室にてサボテン科のゲッカビジンがたくさんの蕾をつけています。ゲッカビジンと書きましたものの、この名前はやはり“月下美人”と書かないと変ですね。バニラ（ラン科）の花も見られますよ。



クチナシ



ボリジ



ゲッカビジン



バニラ

■薬用植物園からのお知らせ

《月下美人の開花動画など》

月下美人の蕾がたくさんついたことを書きましたが、残念ながらその開花をリアルタイムで見ることはできませんでした。しかし、漢方研究部の学生たちが開花状況の記録をしてくれておいたとのこと。その上映会でも計画すべく、今、黒木委員が鋭意編集中です。七夕が近くなりました。皆で七夕祭りに参加してみませんか。まずは、近々短冊を用意しますので願い事を書き込んでみてはいかが。これらの行事についての情報は薬用植物園温室と漢方資料館に随時掲示します。

発行：日本薬科大学薬用植物園管理運営委員会
委員長（薬用植物園長）／船山信次
副委員長／山路誠一
委員（教員）／野口博司・西川由浩
新井一郎・糸糸七重
委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子
土屋翔太郎・佐藤智恵・黒木重夫